

問政銀川を対象とした市民の政府に対する問いかけの分析  
Analysis of the inquiries of the citizens toward the  
government's Weibo account Wenzhengyinchuan

学籍番号 :201621651

氏名 :張 亜飛

Yafei ZHANG

本研究は以下の2点を目的とする。第一に、市民はどのような主題について政府に問いかけているのか、また問いかけに含まれる感情がどのようなものなのかを明らかにする。第二に、政府とのインタラクションにともに参加し、民意と世論を形成する第三者である他の微博ユーザーが、問いかけに含まれる感情をどのように受け取るのかを明らかにする。

市民による問いかけの主題を明らかにするため、2016年1～12月に微博に投稿された“問政銀川”への問いかけを対象として主題分析を行った。結果として、市民による問いかけには14種類の主題があり、それぞれ催し物と市民活動、銀川市に関する宣伝、旅行、交通、教育、経済活動、警察、社会保障、生活・仕事環境、住居、医療、政務、その他、主題不明であることがわかった。次に、同投稿に対して感情分析を行い、そこで得られたマイナス感情確率に基づいて問いかけに含まれる感情の種類を判断した。投稿全体において、ネガティブ投稿が最も多く44.44%、ポジティブ投稿が38.87%、中立的な投稿が最も少なく16.69%であることがわかった。問いかけに含まれる感情と他の微博ユーザーのリアクションとの関係に対して相関分析を行ったところ、投稿全体において、ポジティブな感情とコメント数、いいね数が正の相関関係に、ネガティブな感情とコメント数、転送数、いいね数が負の相関関係にあることがわかった。さらに回帰分析により、投稿のコメント数といいね数が転送数に影響することが明らかになった。

以上の結果から、市民による問いかけの内容が日常生活と密接していること、市民が問いかける際に感情を自由に表現することが示唆された。

研究指導教員 : 歳森 敦

副研究指導教員 : 松林 麻実子